

問 11 子どもが読書に親しむようになるため、問 10 の選択項目以外にお考えのことや特に大切だと思うことは何ですか。(自由記載)

主なもの

●子どもが目につきやすく、取りやすいところに本を並べ、家族みんなで本を読む時間をつくる。

●車でしか行くことのできない図書館の場所。自転車で行くには道路が危険なため気軽に行くことができない。図書館に足を運べるような子が興味を持つようなイベントを行って欲しい。

●まず一番大切なのは幼児期における絵本の読み聞かせだと思います。学校に入ってから学校図書を毎日貸し出す習慣(例えば宿題にする)、ゲーム感覚で読書をした本の数、もしくはページ数を競うなどの工夫が必要だと考えます。また、家族が本を読む習慣があることが子どもの本好きにとっても影響があると思っています。

●魅力的な蔵書のレイアウトと目録どおりの配架、本棚や閲覧場所の心地よい配置。明るく衛生的な空間、何でも聞きたい時に専任者がいること。または、サポートできる体制であること。または、図書専用の広い部屋があること。今の図書室はあまりにもお粗末です。

●最初から”読書”というものではなく、本に親しむよう絵本や図鑑、マンガでもいいと思います。”読む”ということを楽しく思い、本から知識が増え、それによりまた、興味がでる。今の時代、情報はあらゆる方法で得ることができますが、ページをめくるあのワクワクする気持ちを今の子ども達にもわかって欲しい。

●興味をもたなければ本を読まないと思います。私自身も小学生の頃は全然読みませんでした。中学生の頃くらいに読書の楽しさを知りました。いつ楽しさを知るのか、子どもによって差があると思うので、その前に嫌にならないように自分で気づくまで、興味を持つまで無理して読ませるのは逆効果だと思います。自然に好きになってくれるのが好ましい。

●現在、学校に図書室がありません。家の近くに安全に子どもだけでも行ける図書館があればたくさん本を借りたり出来て親しむことができると思います。

●映像では培うことのできない世界が活字にはあるので、どんな時代が来ても生き続けて欲しい活動だと思います。

●読み終わったらシールを貼ったり、〇〇冊で賞状など褒美があると喜ぶのでいいと思う。ただ内容をどの程度理解できているかが不安だが……。好きなアニメやドラマの内容すべて活字にしてあると読んでいる内容を頭の中でイメージしながら読めると思うので面白いと思う。

●ただ子どもに本を与えただけでは親の満足にしか過ぎません。興味のある内容で、本当に自分で読みきれる、その子に合った本の量(文章量)を選択してあげるのも親の役目だと思います。また、黙々と読むことも大切ですが、紙芝居のようなそれぞれの登場してくる人物になりきった話し方をすることで本の世界に入っていきような環境を作ってあげることも親しくなる一つであると思います。背伸びしすぎず、少し文字が大きくても、1冊読みきれる文章から始めるのがまた興味をもつきっかけになると思います。

- 本から学ぶことがたくさんある（文字を覚える、感情が分かるなど）ことを保護者自身が認識し、マンガでも良いから本に囲まれる生活環境
- 私が小学生の頃、自由に本を選び（短めの物語）、それを暗記してクラスの前に出て全員が発表したことがありました。また、本の内容を要約し、それをグループで紙人形のお芝居にして発表したこともありました。今は時間がないのかもしれませんが、本に触れるいい機会だったと思います。また、学校で図書室の本を必ず借りる日を設けるなどすればいいと思います。
- 親や家族が子どもの頃に読書をして、「よかったなあ」と思ったり今でも思い出だけで泣いてしまったり、飛びはねるほどうれしかったような思い出を話してやるなど、多分子どもは、親の声や態度などで、心を理解できるので、やさしい本はやさしく、怖い本は感情を込めてちょっと大げさなくらいに身振り手振りで読んであげると親も楽しい。
- 身近な人が読書好きなら子どもも自然にそうなると思うので、まずは家庭内ですべきだと思う。小学校の図書室の蔵書がすごく減り、貧相になっているのには驚いた。
- 本を読むのはとても大事な事だと思います。小さい時にもっと読み聞かせをしておけば良かったのかと思います。国語の読み文の問題などきちんと読まずにすらっと書いてしまうみたいなので、やっぱり本を読むのは今からでも遅くないと思うので、一緒に読むようにしたいです。
- 強制ではなく、自由に手に取る機会が増えるようにする。学校の授業の時など図書室に行く機会をつくるなど。図書室の強化・充実性が必要だと思う。
- 常に身近に本を置いてあることが大切だと思います。毎日テーマを決めて、そのテーマにあう本を見つけて読むなど継続的に読める工夫があっても良いかも。
- 手が届くところ（例えば教室の本棚とか）に本があったらなんとなくでも“見てみたい”って思うのではないのでしょうか。図書室だと興味がある子しか足を運ばないですし。自分の子の体験・・・「先生の本棚におもしろそうな本あったよ～。読んでみたいな」と言っていたことがありました。目のつくところにあるのって大事だと思います。うちの子、本を読むのが好きなのに、朝、委員の仕事があって本を読む時間が取れないと言っていました。中学生は朝の読書時間しかなかかなか時間が取れないので改善されるといいなと思います。
- 地域や学校でも、年齢に合わせたおすすめ図書の紹介などをして欲しい。自転車でも借りに行けるような場所に図書館が無い。もっと市内に図書館（分館）などが欲しい。
- 1日の時間の使い方について考えさせる。TV、ゲームの時間がとても多い。あまりジャンルにこだわらず、おもしろいと思った本から完読していれば他の本にも興味がわいてくると思います。
- 学校図書室を利用するように促す。（部活を行っているとき放課後は利用できない。また、休み時間も短いからとなかなか図書室までは足が向かないようです。）いらなくなった本を集めて、交換会とかあるといいですね。興味がある本すべてを買うのはなかなか難しい。（本屋さんが自分で行ける範囲にない。お小遣いでは値段が高く、手が出せない。）
- 小さいときの読み聞かせはとても大切だと思う。幼児の時には親が環境を作ってあげなければ本が好きになれないし、その時間の積み重ねはとても大事だと思う。小学校、中学校では学校の図書の充実も必要だと思う。本を読むことは、勉強にもつながって

るし、いろんな世界を知れたり、視野を広げられたりします。本を好きになることは、一生の宝物になるのではないかと思います。

●読書が嫌いな子どもでも漫画や興味のある本は読みたいと思っているはずなので、音楽、スポーツなど子ども達の趣味の本なども学校にあると読む機会が増えると思います。中学生なので、将来のことを考えられるような本がいいですね。本が好きになれば視野も広がるし、いじめなどもなくなるように思います。

●幼児期から、興味を示すものを絵本や図鑑などを使って見たり、調べる習慣を親が進んで行ったり、この本を見るときもっと詳しく知ることが出来るのではとアドバイスしたり、小さい頃からの環境・人的サポートが特に必要かと思います。学校の朝読の実施は、良い部分もあるでしょうが、単に数を読むことにウエイトをおく児童もいて身になる読書習慣になっているか疑問に感じます。それより、道徳的な内容や優れた内容に触れた本を一冊でもすすめる機会を提供すべきだと思います。

●先生が話題の本などを紹介すると興味を持つのでは。

●図書館の開館時間の延長（子どもが部活等で遅く帰ってくるので、6時に終わってしまうので行けない）

●やたらに沢山の本を読めば良いというものでもなく、一冊の好きな本を繰り返し読んであげたり、読みあじあわせてあげるようにすること。